



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で 4 ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 20 日（2024 年度のチャレンジプラン）
プラン名	西新井小 防災教育 2.0 チャレンジ
実践団体名	足立区立西新井小学校
代表者名	校長 加納 和彦
電話番号	03-3890-5591
メールアドレス	nis1-ead@adachi.ed.jp
実践団体の説明	2014 年度から特色ある教育活動として、防災教育に取り組んできた。これまでの活動は「防災巻（目黒巻）」「防災マップ」だったが、児童がより主体的に防災学習に取り組むこと、学校を核として地域・保護者と一体となった防災活動を展開することを目標に、本プランを立ち上げた。
所属メンバー	（代表）校長 加納 和彦 （担当）主幹 今野 拓洋 （地域）興野北町会をはじめとする学区域の町会 （保護者）任意協力団体「西新井小サポータークラブ」
活動の本拠地	（本部）足立区立西新井小学校 東京都足立区西新井本町 4-9-27 （団体単位）西新井小学校避難所運営組織
活動開始時期・結成時期	現在の組織として発足したのは 2024 年 5 月から
過去の活動履歴・受賞歴	2019 年度ぼうさい甲子園フロンティア賞 2020 年度ぼうさい甲子園はばたん賞 2020 年度ぼうさい探検隊マップコンクール気象庁長官賞 2019 年度ぼうさい探検隊マップコンクールぼうさい探検隊賞

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA、4. 地域組織
-----------	-------------------------------



プランの運営側の人数（実数）	約 100 人（教職員、自治会関係者、サポータークラブ）
プランの活動地域	・東京都足立区西新井小学校区 ・愛媛県四国中央市（オンライン共同授業） ・台湾 臺中市豊原區葫蘆墩國小（オンライン共同授業）
プランの防災教育の対象者	1. 乳児 2. 幼児・保育園児・幼稚園児 3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年） 5. 小学生（高学年） 10. 教職員・保育士等 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織 14. 女性 17. 高齢者 18. 海外 19. 防災関係者 20. 全ての人々 21. その他（具体的に：区災害対策課）
防災教育の対象者の人数（実数）	約 1500 人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 7. 犯罪 8. 火災 9. 災害全般
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い 9. その他（具体的に：地域社会との協働）
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 3. 講演会・シンポジウム 4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 6. 特別活動 8. 学校内の諸活動



	11. 家庭や地域で行う個別学習 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練 14. 研究 15. 読書・絵本・読み聞かせ 17. その他（具体的に：防災給食）
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 6. 消防団 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO 15. 学術組織 16. 個人 17. その他（具体的に：台湾公立小学校）
実践にかかった金額	10万円未満

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災教育担当組織立上げ		
5月	西新井小サポータークラブ発足	サポータークラブ加入案内 ポスターの作成	運動会での準備・後片付け活動への参加
6月	興野北町会との合同訓練	興野北町会・消防団 近隣病院等との打ち合わせ	放水訓練 煙体験 応急救護訓練 起震車体験
7月	マイタイムライン授業	全教員を対象にマイタイム ライン指導研修の実施	荒川氾濫を想定したタイム ライン作成 保護者との共有
8月	西小防災キャンプ	西新井小サポータークラブ が主体となり計画・準備	体育館での避難所設営訓練 宿泊を伴う避難訓練
9月			
10月	西小防災 DAY	区災害対策課・学区自治会 との連携 保護者への周知 バーコードチェックインシ ステムの構築	児童・保護者一斉避難行動訓 練 バーコードチェックインシ ステムの実践
11月	防災学習月間 (2・4・6年)	区役所・消防団等のゲスト ティチャー	各自テーマを決めて、防災に 関する調べ学習
12月	防災学習発表会	スライド作成・動画作成	2年スライド発表



		ポスターセッション準備	4 年防災番組制作 6 年テーマ別ポスターセッション
1 月	台湾小学校とのオンライン共同学習 全校防災巻 DAY (一社) 福祉防災コミュニティ協会による授業	パドレットや LINE を使用してネット上で打ち合わせ 防災巻中国語繁体字バージョンの作成 事前打ち合わせ	本校 6 学年 台湾 4・5・6 学年 互いに防災巻（目黒巻）を制作して紹介し合う 立場によって異なる避難時の課題をテーマに授業
2 月	福祉防災に役立つシステムづくり	マイクロビットの準備 設計とプログラミング	センサー教材マイクロビットにプログラムを入れて、防災に役立つシステム作成
3 月			



実践したプランの内容

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

プラン全体の概要 どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。 写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。	これまでの防災学習は教師が内容を決め、児童がそれを受けるとい形態が多く、児童の主体性の高まりに疑問があった。また、地域の特性上、保護者と地域との関係が希薄であることや、保護者の防災意識に高まりが感じられなかったことなどが課題だった。そこで、児童の主体性を高め、学校を核として保護者と地域がつながる防災活動の実践を目指し、本プランを企画した。
プランの「チャレンジ」の結果 プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。 写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。	まず、学校の防災教育に保護者が参加したことが大きい。地域との合同防災訓練を学校公開日に実施したことや、親子防災キャンプ、児童・保護者による一斉避難訓練を実施したことで、児童だけでなく家庭全体で地域を知り、防災について考える機会になった。また、テーマを児童が設定して防災学習を進めたり、台湾をはじめとする外との交流機会を設定することで、児童の主体性が高まった。
実践内容・方法・成果 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。 このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。 実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。	サポータークラブは、学校が発足の窓口となり、QRコードでアクセスできるフォームを用意した。その後、組織作りまでを学校が行い、以後の活動はクラブに任せた。 防災キャンプは、区の協力を得て、非常食等を用意した。また、実際に教室を開放し、参加者が宿泊体験をした。 防災 DAY「児童保護者一斉避難訓練」については、あらかじめ当日の動き方などのスライドを作成して各家庭に配信し、参加しやすい環境づくりに努めた。また、教員が極力



	介入しない形をとり、避難後の過ごし方や各部屋のリーダー決定などを保護者に任せた。これにより、保護者にも当事者意識や主体性、協働して課題解決にあたるという意識が生まれた。 学習発表会では、全体テーマを防災に設定し、それぞれの学年に応じた内容に取り組んだ。スライドや動画制作など、一人一台端末をフル活用して、児童は学んだことを発表した。 また、台湾の小学校など、他校との交流にも積極的に取り組んだ。特に台湾との交流は、互いに地震災害が多い地域のため、有意義な交流ができた。本校で長年取り組んできた「防災巻」（目黒巻）が台湾でも有効であることが確認できた。 テーマ別の学習を通して、多くの団体との縁が生まれた。その中でも福祉防災コミュニティ協会の方々には、直接授業をしていただく機会を設定していただいた。それがきっかけとなり、福祉の観点から防災上の課題を見つけ、プログラミングで解決する学習につなげることができた。 この一年間の取り組みは、正直、ここに書ききれないほどである。一年の中で全校を通してこれだけ多くの取り組みができたこと。そして、これからは来年以降も継続する方向である。児童が受け身ではなく、児童が主役となる防災教育が実現できたと自負している。
--	--

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

1. 【準備段階】<u>運営側の担当者</u> を決める際の工夫 例：役割分担を明確にした	従来の校務分掌組織に、防災教育の担当割を当てはめたことで、個々の役割を明確化できた。 サポータークラブは、まず発足時に PTA のスポーツ団体が核となってくれたことが大きかった。
---	---



2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした	自治会との連携、開かれた学校づくり協議会との連携
3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った	教職員の間で、防災教育特別組織を立ち上げた。
4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した	対象者を限定することはむしろ避けた。 また、児童が一人一台端末を持っていることから、オンラインによるつながりを積極的に進めた。
5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた	定期的に打ち合わせ時間を設けた。また、防災に関わる研修会を定期的に実施した。
6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した	学校が主な活動場所となったので、あまり苦労しなかった。フィールドワークをさらに拡大したい。
7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した	
8. 【準備段階】<u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた	防災に関わる専門家や関係機関に、なりふり構わずメールや電話をして分からないことは聞いた。中には「お金も払わずに知識をもらうとは失礼だ」という専門家からの苦言もあったが、ビジネスでやっている人もいるんだなという程度に考えて気にしなかった。ほとんどの方が、とても丁寧に応じてくださり、防災に関する裾野の広さに気づかされた。
9. 【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：web サイトを引用した	プログラム・教材ありきの防災教育は児童の主体性を高めえるうえではむしろ良くないと考えた。児童が何に問題意識や興味をもち、それを解決するにはどの方面を当たればよいのかを教員は考えて行動した。
10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	実行委員に助言を求めた。



例：実行委員に助言を求めた	
11.【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した	開かれた学校づくり協議会の場で、昨年度末から本プランのことや今後の学校の取り組みを説明して、理解と協力を得た。
12.【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した	カリキュラム・マネジメントが非常に大切。あらかじめ、総合的な学習の時間でどのぐらいの時間がさけるのかを計算しながら進めた。
13.【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた	
14.【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した	
15.【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた	若手教員にも積極的に参加してもらった。また、運営に関しては、複雑化することを避け、来年度以降も持続可能にすることを意識した。
16.【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った	児童の ICT 技能の高さを活用して、スライドや動画、ポスター作製などを行った。
17.【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した	WEB サイトによる発信。オンライン交流による紹介。
18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した	活動の後に、フォームを配信して関係者から意見を集めた。



今後の活動予定・今後の展開 今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200 字～600 字程度で記載してください。 写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの 2～3 枚程度にしてください。	地域との共同防災訓練、夏休みの防災キャンプ、児童保護者一斉避難訓練は、来年度以降も必ず継続する方向で動いている。さらに、児童保護者一斉避難訓練と地域との共同防災訓練をワンセットにすることで、地域と保護者のつながりがさらに生まれると考えている。マイタイムラインと防災巻の学習は引き続き、対外オンライン交流の際の学習ツールとして活用する予定。台湾との防災学習交流は継続。
---	--

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	1年間を通して、様々な視点から多くの人々の協力を得て、これだけ盛りだくさんの防災教育を実践できたことは、他団体にはない成果であると感じている。これは、学校だからこそできることであり、カリキュラムマネジメントによる成果であるとも感じている。 ICT 機器の導入により、児童生徒の学習スタイルは現在大きな変換点に差し掛かっている。次期指導要領でも、主体的に学ぶ児童がメインテーマになろうとしている。これまでの防災学習は、過去の経験や教訓を教師や専門家、被災経験者が児童に伝えることが多かった。それは間違っていないが、一方向からの教え込みになってはいけない。 学校が多様な視点や方法から学習活動を計画し、児童が防災に対して興味や問題意識を高め、自ら追究する防災教育を進めることこそが「自分の命を自分で守る子」の育成につながると考えている。
----------------------	---

チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。



チャレンジプランを実践しての感想・想い チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。	防災教育は、単に「命や暮らしを守るための教育」にとどまらない可能性をもっていると思います。防災がきっかけとなって、学習の視野が広がったり、他者との交流や連携につながったりすることがよく分かりました。 学校の特色としての防災にとどまらず、学校の教育活動の核として防災が設定できるのではないかと感じています。 今後もぜひ継続して取り組んでいきたいと思っています。
---	--